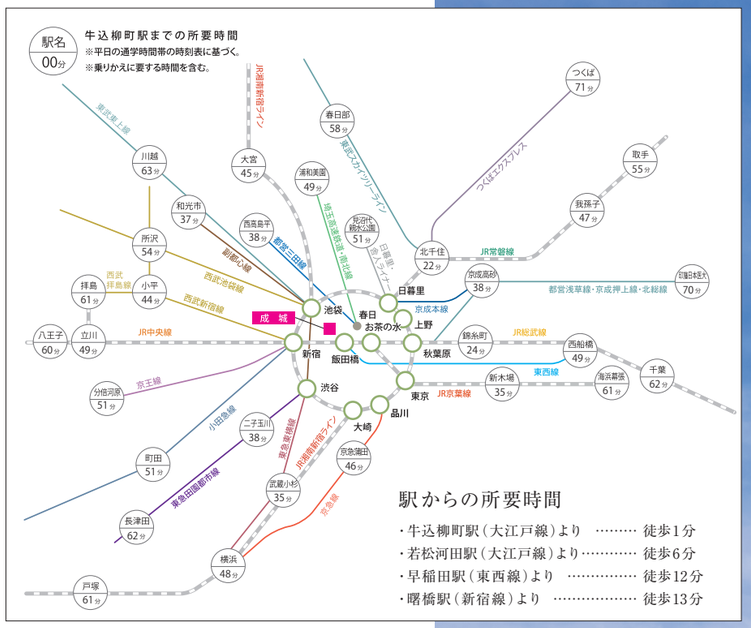
成城

ACCESS



都営大江戸線路線図

周辺図

成城中学校・成城高等学校
SEIJO JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

〒162-8670 東京都新宿区原町3-87
TEL.03-3341-6141　FAX.03-3341-3165
http://www.seijogakko.ed.jp

2022年度説明会

【要予約】（本校公式サイトより申込）

〈学校見学会〉10:00～11:15

- 5月28日（土）
- 6月11日（土）
- 6月25日（土）

〈学校説明会〉10:00～11:15

- 9月24日（土）
- 10月12日（水）
- 10月29日（土）
- 11月12日（土）
- 11月30日（水）

2023年

- 1月11日（水）

〈文化祭〉

- 9月17日（土）・18日（日）

※上記日程は変更になることがあります。
※詳細は本校公式サイトでご確認ください。

成城中学校・成城高等学校

SEIJO JUNIOR AND SENIOR HIGH SCHOOL

学校案内2023

受け継がれる伝統

臨海学校

成城には「あこがれ」という伝統があります。例えば、90年以上の伝統がある、臨海学校。

参加する中学１年生の命を守るために、高校２年生の各クラブの精鋭たちが指導の補助をしています。彼らは、泳ぎの指導だけでなく、安全な修技のために様々な業務をこなしてくれています。後輩のために、力強く働く先輩たちの姿は、中１のあこがれの存在。良い手本となっています。

成城は、絆を深め人間的に成長できる場であふれています。生徒たちは色々な先輩にあこがれながら、自己の個性と能力を伸ばし、自ら考え行動する次世代を担うリーダーに育っていきます。

撮影協力：ニッコンフォト

次世代のリーダーの育成

エンパワーメント・プログラムにて

グローバル教育

グローバル化が進む世界で20年後30年後の時代を担っていく生徒たちには、新たなリーダー教育が必要です。海外経験を得ることや、英語を話せることも大切ですが、それよりも大切なのは、「自己」を確立することです。

本校では「自己の確立」を最終目的とした、校内や海外でおこなう、大小様々な研修プログラムがあります。これらの研修を通して、生徒たちは文化や価値観の異なる多様な人々と英語をツールとして対話し、チームでの議論・企画・発表を通して、自分を表現する力を養っています。

成城では、これからの時代をたくましく生きる人間力の高いリーダーを育成しています。

エンパワーメント・プログラム

カリフォルニア大学など、世界のトップ校の学生を本校に招いておこなう、自己確立のための研修です。（希望者対象）

オーストラリア・グローバルリーダー研修

自らのリーダーシップを高めることを目指して様々なミッションに立ち向かう本校独自の研修です。（希望者対象）

台湾・グローバルリーダー研修

台湾の大学の講義を受講し、現地の学生と交流し、どのようにグローバル社会で貢献するか考えるプログラムです。（希望者対象）

JETプログラム

本校はＪＥＴプログラムに参加しており、英語を母語とする２名の青年が指導の補助をしています。

※JETプログラム…語学指導等を行う外国青年招致事業

成城の6年間

中学1年生 | 中学2年生

基礎学力養成期

学力均等のクラス分け

※習熟度別の授業はなし

自学自習を促す

学習習慣の確立には、目標を設定すること、自ら計画を立て時間を適切に管理することなどが求められます。うまくいかないことや失敗することも想定しつつ、対話を重視したきめ細かい指導をおこなっています。他律的な学習から、自律的な学習に切り替えられるように促します。

挑戦と失敗

中学3年生 | 高校1年生

進路　決定期

学力均等の　クラス分け

※習熟度別の授業はなし

自分を知り、世　界を知る

より勉強したい生徒向け　の発展講座や進学講習、異文化に興味を持つ生徒　向けのグローバル研修が始まります。様々な機会　が設けられており、それらを自ら選択することで、やり抜く力が身につきます。未来の履歴書の　作成や、OB講演会などは、自分の将来を考える　きっかけとなります。

やり　抜く力

高校2年生 | 高校3年生

実力完成期

文系／理系のクラス分け

※一部の科目で習熟度別授業

他者に影響を与える存在に

学校行事や生徒会活動、部活動などでリーダーシップを発揮する機会がふえます。他者に影響を与える存在としての自覚が生まれ、将来の目標が明確になっていきます。自らが希望する進路を実現するために、授業や進学講習を通じて、実力の完成を目指します。

希望する進路実現

成城の教科教育

国語科

ことばを豊かにする

国語という教科は、日常的に使うことばを相手にする教科です。そのため、あらゆる教科の基礎となるものだといえます。また、人間が学習し、知識を得、ものごとを考え、なにかを創りだすためにことばは最も大切な道具です。じぶんというものをつくっていく分身のようなものでもあります。ことばが豊かな人は、学習においても人生においても豊かなものを得られるでしょう。国語の学習を通じて、豊かなことばを身につけてほしいと思います。

PICK UP

学校図書館と連携した授業

国語では図書館と連携した授業をおこなっています。本の専門家である司書と組むことで、教科書にとどまらない授業を展開するためです。授業を通じて、図書館や司書を身近に感じ、授業外でも積極的に本（ことば）に触れてほしいとも考えています。

数学科

数学の面白さ・論理的思考力を学びとる

中学では「代数」「幾何」「統計」の３分野に分けて並行して授業を展開しています。特に「統計」においては、高校の教科「情報」との関連性も高いため、情報科の単元とコラボレーションさせて週１時間で授業を展開しています。週３時間の「代数」と週２時間の「幾何」においては、数学史や自然の中の数理的な現象も扱い、数学への興味や探究心を喚起しています。

高校では、様々な単元を通して論理的思考力を養い、問題の答案として表現するための記述力を修練していきます。

PICK UP

文系理系合同の入試対策演習

高３では教科書を終えた単元から順次、入試対策演習をおこなっています。大学入試方式の多様化に対応し、文系も理系と同じ演習を受講できるようにしています。習熟度別のクラス編成で、共通テスト対策から最難関大学対策までを幅広くカバーしています。

英語科

基礎からじっくり ４技能を向上させる

小学校での学習到達度にかかわらず、本校では全員同じスタートラインから学習を始めます。中学校ではネイティブスピーカーと日本人教員による英会話の授業を各学年週１時間でおこなうなど、４技能（聞く・話す・読む・書く）をバランスよく習得させていきます。

高校では大学入試も視野に入れ、「英語は使うことによって習得できる」ということを意識させながら、英語力・コミュニケーション能力を総合的に向上させることを目指しています。

PICK UP

ネイティブスピーカーによるライティングの授業

高１・高２において、ネイティブスピーカーによるライティングに特化した授業を週１単位でおこなっています。自分の意見やその根拠などを英語で発信できることを目標とし、添削をおこなうことにより、より多くの英語表現が定着するように指導しています。

理科

実験や観察を通じて「ホンモノ」に触れ、科学的な考え方を身につける

中学では「物理・化学分野」を扱う「理科１」と、「生物・地学分野」を扱う「理科２」に分けて授業を展開しています。様々な理科の知識を講義で学ぶだけでなく、実験や観察を数多くおこない、身近に起こる現象についての理解を深め、自然に対する興味・関心を育てています。

高校では「物理」「化学」「生物」「地学」の４分野に分かれ、より高度な知識や技能を学習し、難関大学入試問題に対応できる力を養います。興味の幅をさらに広げ、科学的な考え方の完成を目指します。

PICK UP

生き物に関するレポートの作成

中１を対象に、興味を持った生き物に関するレポート作成をおこなっています。テーマの設定や実験・観察方法の考案をして、結果・考察までをまとめ上げます。レポートは文化祭期間に貼り出され、来場者に評価してもらうため、どのようなレポートが人を惹きつけるかを考える機会にもなっています。

社会科・地理歴史科・公民科

総合的な知を身につけ、社会を見つめる

中学では１・２年で歴史的分野と地理的分野、３年で公民的分野を学びます。それぞれ特色を持つ分野ですが、最終的な目標は共通です。それぞれの視点から、過去から現在に至るまでの様々な社会事象を学ぶことで、分野をこえた総合的な知を身につけることを目標としています。

高校ではより幅広い知識を習得するとともに、本格的な論述問題に対応するための授業も設定されています。また、夏期と冬期に開講される進学講習では、生徒の興味関心を引き出すため、座学にとどまらない多種多様な講座が開講されています。

PICK UP

環境地図の作成

中１・中２の生徒を対象に、自分でテーマを設定し、調べ、結果を考察するための環境地図の作成をおこなっています。実際に現地に足を運び五感を通じて感じることの大切さも伝えており、生徒の学びのモチベーションにつながっています。

保健体育科

伝統を継承する

保健では「健康とは何か」ということを大きなテーマとして、身体や心、飲酒、喫煙、薬物、感染症、医療制度など横断的に幅広く学びます。心身ともに健康に生活をしていくために、また日常生活を送るうえで知っておくべき知識や技術を身につけます。

体育では運動技術やルールを基礎・基本から段階的に学び、高３では道具の準備や審判も含め、生徒自身による試合運営を目指します。また、中学運動会での中３による「成城体操」や高２の「臨海学校補助員」など、伝統を後輩へ受け継いでいく指導をおこないます。

技術家庭科

〈技術科〉ものづくりを通じて、「豊かな心」を養う

素材に働きかけ、自己の知識や技能を最大限に利用して物をつくる。先人の知識を尊び、無駄を省き、資源を大切にする。そのような豊かな心を養うことを目指しています。具体的には、製図、木材加工、金属加工、栽培、電気実習、情報実習などをおこないます。

〈家庭科〉日常をより楽しく

中学では衣・食を中心に、高校ではより深い学びにつなげるための基礎的知識の習得を目標としています。高校では食・住・法律を主なテーマとして、分野ごとに関わりのある他教科の要素も取り入れることで広い視野を持った自立した人材の育成を目標としています。

芸術科

〈音楽科〉「感性と創造力」・「自ら気付く力」を育む

授業では歌・合奏・鑑賞・楽典を中心に生涯教育としての音楽を学ぶと同時に、様々な要素を含む音楽を通じて、「自ら気付き表現できる感性」と「創造力」を育み、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けることのできる視点を養います。

〈美術科〉世の中の現象を造形的に考える

絵を描いたり、彫刻をつくったり、デザインを考えたり、動画を編集したりしながら、世の中の現象を造形的に考えることによって、これからの自身の生活を豊かにしたり、豊かな心を育めるような体験をしてもらいたいと思っています。

情報科

Society 5.0を見据えた授業展開

情報科では、新たな情報社会に主体的に参画するための資質・能力を養うことを目指しています。高１の「情報Ⅰ」は生徒の関心を惹く教材を多数用意し、高度な情報技術の活用法が身につき、新課程入試に十分対応できるカリキュラムになっています。

また、中高一貫校の特色を生かして、中１の「数学統計」というオリジナル授業を設けています。この授業では、データサイエンスの基礎となる統計学の基本を学ぶとともに、情報モラルやリテラシーについても丁寧に指導しています。長期休業中にはマイコンロボットを用いた独自の「STEM講習」も開講しています。

成城の行事 ～ 年間行事紹介 ～

本校では行事も大切な学習機会と考えています。
林間学校・臨海学校を、全国に先駆けて開設したのも本校であり、
今日までその伝統は脈々と受け継がれています。

※日程は変更になることがあります。

4 APRIL

・入学式・始業式・対面式
・新入生オリエンテーション
・新入生歓迎会

5 MAY

・春季校外課業（遠足）
・５月考査（中間試験）
・春の中学行事（中学）
・プール開き

6 JUNE

・実用英語技能検定（高３）
・春の視聴覚行事
・進路講演会（高２）

7 JULY

・７月考査（期末試験）
・体育祭（高校）
・臨海学校（中１）
・林間学校（中２）
・発展講習（中３）
・夏期進学講習（高校）

8 AUGUST

・各クラブ夏期合宿
・エンパワーメント・プログラム（中３～高２希望者）

9 SEPTEMBER

・文化祭

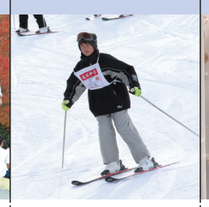
10 OCTOBER

・運動会（中学）
・10月考査（中間試験）
・秋の中学行事（中学）

11 NOVEMBER

・マラソン大会
・秋の視聴覚行事

12 DECEMBER



・12月考査（期末試験）
・発展講習（中３）
・冬期進学講習（高校）
・スキー学校（中２希望者）

1 JANUARY

・創立記念日
・講座制授業（高３）
・実用英語技能検定
（中1～高２）

2 FEBRUARY

・入学試験

3 MARCH

・３月考査（期末試験）
・修学旅行（中３・高２）
・中３を送る会（中学）
・中学・高校卒業式
・修了式
・オーストラリア・グローバルリーダー研修（中３～高２希望者）
・台湾・グローバルリーダー研修（高１・２希望者）

◎ 行事PICK UP

中学行事（社会科見学）

年２回、中間試験の翌日におこないます。本校周辺の大学や研究施設、博物館や美術館を班で散策し、感性や地図を見る力を育みます。

体育祭（高校）

生徒会が運営する学年別クラス対抗の球技大会です。最後には全員リレーをおこないます。クラスの親睦を深める絶好の機会になっています。

林間学校（中2）

大正７年に開設された伝統行事です。林業体験などに加え、近年では農村のご家庭にお邪魔しています。人と自然の関わりを学びます。

文化祭

生徒たちが主体となって運営し、クラス企画や、文化部の研究発表、運動部の招待試合、有志団体など、全生徒が参加する大きな行事です。

講演会

卒業生や外部講師を招いて多種多様な講演会を実施しています。受験勉強の取り組み方や進路決定、大学での研究分野などの話は、生徒の進路決定に役立っています。

修学旅行（中３・高２）

３泊４日で実施され、歴史・文化・自然を学びます。高校では複数コースから選択することもあります。近年では沖縄・関西・九州・中国地方でおこなっています。

成城生の１日

戸佐 環
中２・141期生

好きな教科は国語。
科学部に所属。

１日の時間割（例）　１時限目 数学 ／ ２時限目 理科 ／ ３時限目 体育 ／ ４時限目 社会 ／ お昼休み ／ ５時限目 美術 ／ ６時限目 英会話 ／ ホームルーム・掃除 ／ 部活動

登校
～8:20
都営大江戸線牛込柳町駅から徒歩１分。信号の無い落ち着いた通学路です。

ホームルーム
8:30～8:40
朝、担任の先生から出席のチェックを受けてから、１日が始まります。

午前の授業（理科）
8:40～12:30
実験室で鳥の心臓の解剖中です。戸佐君のスケッチは秀逸です。

昼休み
12:30～13:10
早弁で食事を済ませ、仲の良い友達と談笑しています。

午後の授業（美術）
13:10～15:00
ステンドグラスの着色をしています。みんな真剣そのものです。

ホームルーム・掃除
15:00～15:25
帰りのホームルームの後は、掃除です。大切な教室を自分たちできれいに。

部活動（科学部）
15:30～17:00
放課後は科学部に参加。先輩に教わることがたくさんあります。

多彩なクラブ活動

運動部

中学硬式テニス部
中学サッカー部
中学バスケットボール部
中学バレーボール部
中学野球部（軟式）
剣道部
柔道部
水泳部
体操部
卓球部
陸上競技部
バドミントン部
高校硬式テニス部
高校サッカー部
高校相撲部
高校バスケットボール部
高校バレーボール部
高校野球部（硬式）
山岳部（高校のみ）
自転車競技部（高校のみ）
ラグビー部（高校のみ）

文化部

囲碁部
演劇部
科学部
合唱部
写真部
ジャグリング部
吹奏楽部
速記部
地理研究部
鉄道研究部
美術部
放送部

同好会

中学相撲同好会
古典ギター同好会
将棋同好会
数学研究同好会
スキー同好会
釣り同好会
文芸同好会
歴史研究同好会

先輩

中川 喜弘
2022年卒・136期生
東北大学 文学部 人文社会学科 入学
歴史研究同好会 前会長

後輩

片岡 義秀
高2・138期生
歴史研究同好会 会長

SEIJO STORIES

進学先でも歴史を研究する予定の先輩が、大学入学前にOBとして活動に参加して、現在の会長に思いを託しました。

「先輩」×「後輩」

片岡：まずは大学合格おめでとうございます。僕は小学生の頃に訪れた文化祭で、歴史研究同好会の展示を見て、成城に入りたいなって思ったんです。個々が好きな研究をできているなって感じました。

中川：個々の研究の充実は意識していることです。さらに僕が目指した歴研の姿というのは、学年に関係なく、それぞれがやりたい研究をやっていて、研究者としてお互いに尊重し合っているような集まりでした。

片岡：僕もその思いは、受け継ぎたいと思っています。加えて、話し合いもどんどんしていきたいと思っています。会員同士でプレゼンをして、それに対する質疑応答の場をつくる。先輩が後輩に対して何かテーマを出して、それについてみんなで話し合う。そんな議論の場であってもいいなと思っています。

中川：それは片岡さんの代になってから大きく変わったところですね。今の歴研を見ていると、人数が増えた分、カバーできる時代の幅も広がったなと思います。

片岡：そうですね。文化祭の展示で、一人必ず一研究をやってもらい、作品を展示しているんですが、この前の文化祭では古代から近世、近代まで網羅されていました。

中川：後輩が歴研を見に来て、自分がどの時代の研究をやりたくてもできる場所だなって思えるのは大事なことです。我々の活動はみんなで何か一つのことをやるというスタイルではなく、個人研究が最優先になっています。文化祭で研究発表するという機会と、それを活字にして残していくという伝統は引き続き残していってほしいですね。伝統でいうと、成城には明治時代からの古い書物などがたくさんあり、校長先生のご配慮で、史料整理と保存作業に携わらせてもらっています。後輩たちにも、自分たちのルーツを知るという視点を常に持ち続けてもらえたら嬉しいです。

片岡：それぞれ自由に研究することは、歴研として目指すべき姿ですね。それが何かしらの形で残るといいなって思います。

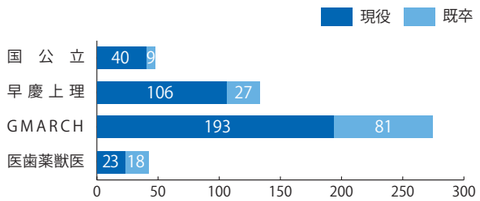
中川：これからの課題を語るとすれば、「残すこと」と「受け継ぐこと」だと思います。我々は城郭研究をまとめた冊子を発行して、ゆくゆくは図書館に置いてもらいたいと思っています。いつか同じ興味関心を持った人が成城に入学するかもしれません。口伝ではなく、形に残すことで、探せば先行研究があるという環境をつくりたい。これからの歴研の使命ですね。

片岡：後輩でも城郭研究に興味を持つ人は増えましたね。僕は城郭研究をきっかけに、測量に興味を持ち始めて、歴史学や文化財の保存の方法など、様々な方向に興味が広がりました。後輩たちにも、城をきっかけとして、様々な方向に視野を広げてほしいです。

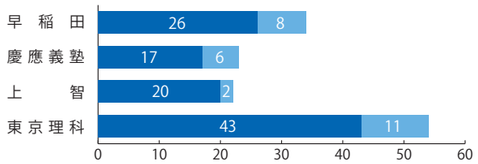
中川：そうですね。好きを極める過程で、視野が広がる人がいると嬉しく感じます。これからの歴研をよろしくね。

進学状況

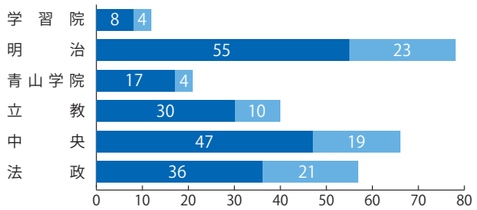
2022年
主要大学の合格状況（卒業生260名）



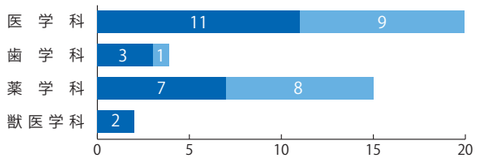
● 早慶上理



● GMARCH



● 医歯薬獣医学科



現役合格率 89.6%	現役進学率 80.4%
早稲田・慶應 57名（現役43名）	国公立大学 49名（現役40名） ※大学校1名を含む
海外の大学 2名（現役1名）	東京大学 1名（現役0名） 東京工業大学 4名（現役2名） 東北大学 3名（現役3名）

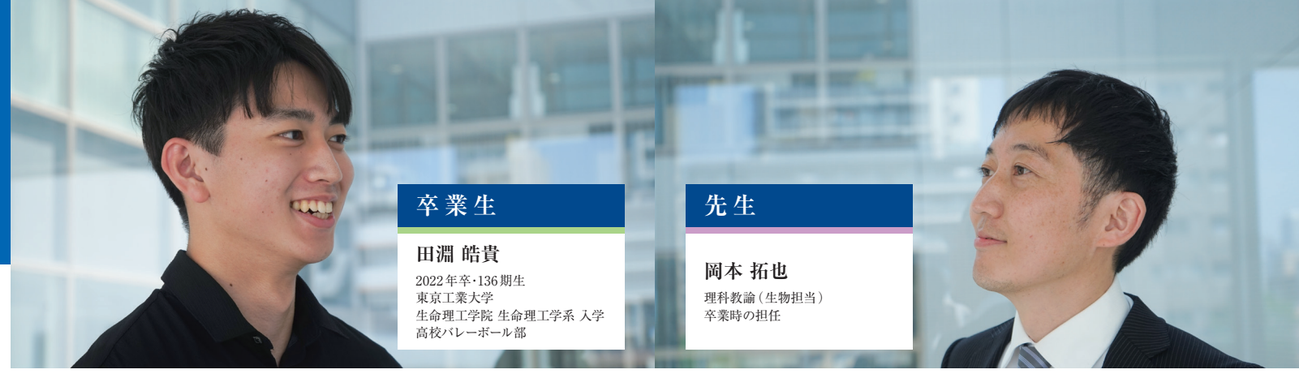
2022年 指定校推薦

大学	推薦枠	進学者
早稲田	6	5
慶應義塾	1	1
上智	3	3
東京理科	8	1
学習院	9	0
明治	3	2
青山学院	2	0
立教	1	1
中央	9	4
法政	4	1
同志社	3	0
立命館	1	0
医学部医学科	5	1
歯学部歯学科	9	1
薬学部薬学科※6年制	17	0
その他	375	1
合計90大学	456	21

◎ 卒業生より

中3の冬に第1志望の大学を決めました。部活が週5であったので、限られた時間の中で勉強する必要があり、部活との両立においては「授業内容を大切にする」ということを意識していました。問題集などで自分で一から勉強するより、授業をしっかり受けて、その復習によって内容を理解するほうが圧倒的に効率的です。変に焦らず授業の進度に合わせて基礎を固めていくことを意識したら、高3の部活引退後に面白いほど成績が上がっていきました。部活動もしっかりやりきれたので、とても充実した6年間になりました。

山本 悠輔　2022年卒・136期生　筑波大学 生命環境学群 生物学類 入学



卒業生
田淵 皓貴
2022年卒・136期生
東京工業大学
生命理工学院 生命理工学系 入学
高校バレーボール部

先生
岡本 拓也
理科教諭（生物担当）
卒業時の担任

SEIJO STORIES

「生物学が好き」を武器に受験を乗りこえた卒業生が、生物の授業を担当した担任の先生を訪ね、これまでの受験生活の振り返りを語ってくれました。

「卒業生」×「先生」

岡本：入学おめでとう。生物の勉強は続けていくんだね。

田淵：はい。もともと生物が好きで、大学でも生物を学びたいと思っていたので、受験勉強でも生物に関しては苦には感じなかったですね。

岡本：生物の授業はどうだった？

田淵：そうですね。岡本先生の授業を最初に受けたのが高1で、それまでは生物に対する漠然とした興味はあったんですけど、高1の授業で面白いなって思って。そのままモチベーション高くここまでこられました。高3最後の志望校対策授業もオンラインでお世話になりました。ここまでこれたのは、先生のおかげだと思います。

岡本：うれしいことを言ってくれるなあ。高1の頃から考える力が高くて、それを上手に文にまとめていたよ。そこをちゃんと磨き上げていったね。

田淵：高1の生物基礎での探究活動が面接試験の時に評価されましたね。授業で探究活動を企画してくれたのは、本当にありがたかったなと思います。そういうのをやってくれる成城はやっぱりいい学校だと思います。

岡本：部活も頑張っていたよね。受験勉強に関しては、部活の引退からはスムーズにシフトできたの？

田淵：目指していた関東大会には行けなくて、4月の予選の後に気が抜けていたんですけど、そこで顧問の先生から喝を入れられたおかげで、最後のインターハイ予選で力を出し切れました。楽しくやりきれたと思ったので、受験勉強にもすぐにシフトできたんじゃないかなと思います。

岡本：面接練習の時に「本当の意味での『頑張る』とはどういうことかを部活で学んだ」って言っていたのが印象的だったよ。

田淵：部活動を通して一番思ったのがそれでした。本当の意味での頑張るっていうのは、目的をはっきりさせて、それに向けての最善の方法を考え続けること、それをやめないこと。今もまだ実践できているわけではないですけど、それを目指して頑張っています。

岡本：受験のラストでもバレーボール部のチームプレーがあったよね。

田淵：そうなんです。自分が総合型選抜入試で先に合格したら、（同じ大学を志望していた）チームメイトに火がついて、一般入試で合格を勝ち取ったんです。本当にすごいと思いました。うれしかったです。

岡本：同級生と切磋琢磨する環境が、成城にはあるよね。

田淵：はい。クラスも生物学に全力だったので、周りに影響されていました。負けないように勉強して、最後だけですけど生物演習のテストで初めて1位を取れた時は、感慨深かったです。

岡本：部活や探究、色々あるけど、成城で頑張っていることが、大学やその先の将来につながるんだっていうのは、後輩に伝えていきたいな。また近況を伝えに来てください。

田淵：はい。またOBとして部活をやりにも来ます。

施設・設備

◎ PICK UP

ICT化に対応した設備

ホームルームの全教室にプロジェクターが設置されており、Wi-Fi環境が整備されています。様々な資料を画面で見せたり、電子黒板として書き込んだりと、授業での表現力が向上しています。

また、Google Classroomを活用したオンライン授業体制も構築されており、オンラインによるホームルームや、授業のライブ配信などが可能です。

■ 職員室

本校には、生徒とのコミュニケーションを重んじ、対話を通じて生徒を指導していく独自の文化が根付いています。そのため職員室は、対話する場としての機能を十分に果たせる設計になっています。全学年の教員がひとつの職員室内におり、各学年に生徒と対面できるカウンターが設置されています。さらに、テーブルとイスを備えた質問コーナーや、周囲の視線を気にせずに相談できる面談室も４室設置されています。休み時間や放課後になると大勢の生徒が職員室を訪れます。

グラウンド

ゴムチップ入りの人工芝に加え、陸上競技用のタータンコースも完備。

体育館

バスケットボールコートが２面とれ、観覧席もある大きな体育館。式典でも使用。

サブグラウンド

正門を入ると広がる砂入り人工芝の多目的グラウンド。

地下体育室

体操器具や音響機材を備え、授業では跳び箱やマット運動、卓球などで使用。

屋上

人工芝のコースとテニスコート１面を完備。

柔道場・剣道場

本校の武道は柔道を履修。
※写真は柔道場。

温水プール

25ｍ×６コースの屋外温水プール。５月末～９月末まで使用。

普通教室

冷暖房・加湿・熱交換換気・CO_2センサー・調光機能・プロジェクターを完備。

特別教室

物理・化学・生物・地理地学・音楽・美術・技術・調理・パソコンなど、専門教室を完備。

小講堂

講演会や保護者会、映画の上映など、幅広い用途で活用する545席の講堂。

イングリッシュ・ルーム

グループワークをしやすい机と発表用のステージとスクリーンを設置。

図書館

蔵書数３万５千冊。放課後は18時閉館。
※冬期は17時閉館。

カフェテリア

自然光の入る清潔感と開放感のある240席の食堂。軽食も販売。

自修館（自習室）

職員室と進路指導室と同じフロアにあり、学習や進路の相談がしやすい学習環境。

面談室・カウンセリング室

カウンセリング室では、スクールカウンセラーが成長過程における様々な悩みに対応。

STUDENTS' VOICES 【Q：どんな成城生活を送っていますか？】

STUDENT 01

鞠子 輝 高3・137期生
生徒会長

夢中になれるもの

「自分を見つける」これができるのが成城の魅力であると思います。グローバル研修では多種多様な文化の人々との触れ合いの中で、己を見つめ直すことができます。それは本当の自分を発見して、夢中になれるものを見つける足がかりになることでしょう。

成城は自分が望み追い求めれば、どこまでもそれに応えてくれる場所です。本気で打ち込めるものを見つけるのは、簡単なことではないかもしれません。しかし、そんな時は自分の周りを見渡してみてください。ここにはあなたを刺激してくれるものがたくさんあります。その中にはあなたが夢中になれるものがきっと眠っているはずです。生徒一同、皆さんのご入学を心よりお待ちしております。

STUDENT 02

伊東 祐弥 高3・137期生
高校サッカー部

成城の精神を引き継いでいってほしい

サッカー部では礼儀を大事にしています。特に挨拶や返事をしっかりおこなうことは僕たちが部活動に励む中で重視していて、その精神は部活の内外でも意識しようと部員間で共有しています。学校の廊下ですれ違う人にきちんと挨拶すること、何か指導やアドバイスをもらった時にお礼を言うこと。こういった些細なことから、しっかり意識していこうと後輩に指導しています。サッカーの技術力向上はもちろんですが、学校生活においても挨拶や返事をきちんとすることが、チームの強さにつながると考えています。成城の校訓「敬愛親和」や「自治自律」にあたると考え、後輩にその精神を受け継いでいってほしいです。

GRADUATE 01

和田 宙丸 2022年卒・136期生
早稲田大学 文化構想学部 入学

小さな社会に生きて

青春のほとんどを吹奏楽部の活動に捧げてきました。いよいよ最高学年になるという時にコロナ禍となり、思い描いていたような活動ができなくなってしまいました。何度も無力感や虚無感におそわれましたが、そのたびに支えてくれたのは心優しい先生方や気の置けない仲間たちでした。学校というのは小さな社会のようなものだと思います。いろいろな価値観を持つ人がいる中で、互いにぶつかり合うこともありましたが、協力して困難な状況を乗りこえることができました。中高6年間を成城という小さな社会で過ごすことができて良かったと僕は思います。

大学では文化学について学ぼうと思っています。ものの見方や考え方をより深く学び、成城の卒業生の名に恥じない大人になり、新たな社会に飛び込んでいきたいです。

GRADUATE 02

木村 拓路 2016年卒・130期生
早稲田大学 先進理工学部卒／東京大学大学院 修士課程 学際情報学府学際情報学専攻

やりたいことを全力でできる環境

在学中は、自学自習の習慣を身につけ、自分の興味がある分野についてとことん追究しました。また、吹奏楽部での活動にも熱心に取り組み、学業と部活動の両立を実現すべく日々を過ごしていました。現在は、東京大学で医療統計について学んでいます。臨床研究の実務能力を養い、倫理観を有する生物統計家として活躍できるように、毎日研究活動に勤しんでいます。

成城は、自分のやりたいことができる環境を備えた学校だと思います。生徒の熱い夢、希望に対して先生方は真正面から応えてくれます。成城での生活を通じて、皆さんぜひ何事に対してもしっかり考え抜く習慣を身につけてください。その習慣によって、自分に自信が持て、答えのない問題に対しても粘り強く柔軟に対応できる知性が築き上げられるはずです。

STUDENT 03

福宮 友樹 高2・138期生
生徒会広報委員長

より良い1冊を届けたい

広報委員会の数ある活動の中で、最も力を入れているのは生徒会誌『独創』の編集です。

平成元年に創刊された本誌は、「模倣によらず、独自の理念で物事を創り出す」という精神の下、これまで受け継がれてきました。中学生を含む幅広い学年のメンバーが、撮影、デザイン、記事作成など、自らの強みを生かして編集に携わり、7～8カ月かけて一冊を作り上げます。編集作業には様々な困難も伴いますが、それを乗り越えて完成に至った時にはとても感慨深いものがあります。

先輩が守ってきた精神をこれからも受け継ぎ、より良い1冊をお届けしたいと思います。

STUDENT 04

牧野 光汰 中2・141期生
剣道部

井上 晴真 中2・141期生
剣道部

切磋琢磨できる仲間

牧野：僕は最初、成績でクラスの友達に負けたのが悔しくて、必死に勉強しました。今も良きライバルとして競い合っています。部活では、先輩や先生が優しく教えてくれて、すごくやる気が出ます。試合で「成城の剣道部はすごく強いなあ」とほかの学校にも言われるほど、強くなりたいです。

井上：成城中学校はのんびりとした校風の中で、勉強も部活も両立できる学校です。部活を頑張りつつ、家でしっかり勉強もして楽しい学校生活を送っています。剣道は礼儀を重んじるスポーツなので、部活以外の時も挨拶などを心がけています。

GRADUATES' VOICES 【Q：成城生活はどのようにいきていますか？】

GRADUATE 03

横山 諒 2007年卒・121期生
京都大学 理学部卒／Max Planck Institute for Plant Physiology,Researcher

世界へ広がる自学自習の精神

今の私が存在するのは成城のおかげだと胸を張って言えます。自学自習の精神の下、大好きな先生方のサポートを受け、在学中は興味のあった化学や生物の力を存分に伸ばすことができました。京都大学理学部に進学、博士号取得後は米国・ウィスコンシン大学に留学し、現在はドイツ・ベルリンにあるマックスプランク研究所で、気候変動や食糧問題の解決に向けた植物の光合成研究に邁進しています。研究者となった今でも、成城時代から継続している自学自習の姿勢は必要不可欠なものです。生徒の積極性を尊重しサポートしてくれる環境を最大限活用し、成城生がどんどんと世界へと羽ばたいていくことを願っています。

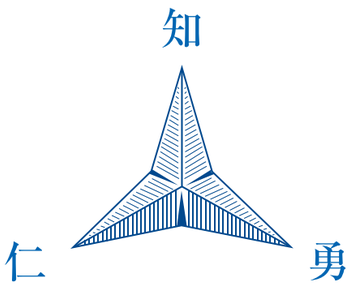
GRADUATE 04

佐藤 可士和 1983年卒・97期生
多摩美術大学 グラフィックデザイン科卒／クリエイティブディレクター

人生最大のターニングポイント

僕の人生で最大のターニングポイントは高校2年生の時だ。当時、大学への進路が見えないままボンヤリと友達と過ごす高校生活だった。進路指導で文系か理系に分かれるということだが、行きたい先が見つからず悶々としていた。子供の頃から絵を描くことが大好きで得意だったのだが、それと大学受験が自分の中で結びついておらず、勝手に文系か理系のどちらかを選ばなければならないと思い込んでいた。学年で一人だけ美術大学を受験するという友人がおり、彼に相談すると、今まで全く思い浮かばなかった美大受験という道が見えてきた。突然の希望の光！これからのことを想像するとワクワクした。それが人生最大の決断で、その日からクリエーターになる道を歩み始めた。高2の時に感じたそのテンションは、今も変わらない。

校章「三光星」



「三光星」の意味するところは
儒教において
基本的な三つの徳とされる
「知・仁・勇」である。

中国の古典『中庸』の「知・仁・勇の三者は達徳なり」より。

校　訓

自学自習　質実剛健
敬愛親和　自治自律

「成城」の由来

校名の「成城」は中国の古典『詩経』大雅編にある「哲夫成城」からとったもの。哲夫とは知徳のすぐれた男子。成城の城は国を指し、国を成すの意。したがって本校の建学の精神は、知徳のすぐれた男子を育て、国家・社会に貢献する人材を輩出することである。明治18（1885）年に日高藤吉郎によって創立された本校は、平成27（2015）年１月15日に130周年を迎えた。

◎ 牛込と成城

本校が立つ「牛込」は新宿区の地域名のひとつ。旧東京市牛込区の範囲を指します。神楽坂や早稲田も牛込に該当し、江戸時代は多くの武家屋敷が軒を連ねる山の手の住宅街でした。

1885年に中央区築地に創立された本校がこの地に移転してきたのは1891年のこと。上皇陛下の外祖父にあたる久邇宮邦彦王が本校に入学されたことをきっかけに、宮内省（現在の宮内庁）から牛込原町の地（現在の校地）を下賜（かし）されました。

牛込には台地が多く、台地の上にある本校の標高は30ｍあまりです。この土地は関東ローム層の強固な地盤でできており、関東大震災に見舞われた際にも、本校の建物にはほとんど影響がなかったと記録が残っています。

また、牛込は夏目漱石などの多くの文豪に愛された土地でもありました。本校の近くにある「夏目坂」は、夏目漱石の生家がこの坂の途中にあったことから名づけられました。漱石自身の随筆である「硝子戸の中」においても、この坂の名前の由来が語られる一節があります。

1913年頃～1970年にかけ、本校近くの大久保通りに都電角筈線（都電13系統）という路面電車が走っていました。最盛期には、新宿から本校・飯田橋・御茶ノ水・秋葉原・人形町を通り水天宮前までを結んでいましたので、本校の生徒もこの都電を利用し、通称「13番」と呼ばれ親しまれていました。

1891年に本校がこの地に根付いて教育に励むようになって、130年もの月日が流れています。

通学にも使われていた都電13系統

伝統を礎に、さらなる革新へ

成城中学校・成城高等学校　校長
岩本 正

創立以来「社会に有為な人材を育成する」という建学の精神が受け継がれてまいりました。
成城が目指す生徒像は、校章「三光星」が象徴している「知・仁・勇」を備えた男子リーダーです。

知 深い読みのできること　**仁** 相手の立場に立って考えられること　**勇** 勇気をもって決断できること

文武両道主義の下、高い人間力とやり抜く力を備えた生徒の育成を目指します。本校は、中高完全一貫校である利点を生かし、変化する社会状況や、大学入試改革に対応したカリキュラム編成を構築するとともに、脈々と受け継がれる理念を基に、ここ数年で大きく変化した教育のICT化やグローバル化にも対応していきます。

この時代に社会で様々な人と協働していくためには、様々な手段を用いて自分を表現することが求められます。6年一貫教育の中、中学生から表現力を育むカリキュラムにより、自分の内面に向き合うことで、自治自律の精神を育成していきます。そして、様々な人とのかかわりの入口となるグローバル教育においては、本校が全国に先駆けて始めた「エンパワーメント・プログラム」をはじめ、「オーストラリア・グローバルリーダー研修」「台湾・グローバルリーダー研修」を継続するとともに、内容の充実を図ってまいりたいと考えております。

文武両道の伝統ある男子校で、夢中になれることを見つけて、それを探究し続けていける男子を求めています。